

令和7年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	19	学校名	奈良北高等学校
----	----	-----	---------

1. 事業内容について

取組・活動・事業名等	「奈良北ちいき DE サイエンス」 (くらしのブンカサイ 2025、東向北商店街の文化祭)
教育課程上の位置付け・ 目標又は活動のねらい	LAS 探究や数理情報科の探究活動の成果を地域や地元の小学生に発信することによって、表現力を磨き、豊かな思考力と判断力を養う。これらの活動を通じて社会の一員としての自覚を持ち、高校生として積極的に社会と関わっていく姿勢を育みたい。
連携・協働相手	生駒市 (生駒 SDG アクションネットワーク)、東向北商店街 STRAIGHT PRESS
地域と共有している 目標・課題等	探究的な学びをとおして文系・理系の枠を超えた科学的な思考力を身につけ、課題解決をする中で得られた成果や新たな気づきを活かした地域交流を進めていく。
取組・活動の内容 (生徒の主体性、具体的活動、連携・協働内容など)	
<p>2年生数理情報科の有志生徒が中心となり、生駒市主催のSDGsイベント「くらしのブンカサイ 2025」において「奈良北ちいき DE サイエンス 遊んで不思議?実験教室」を企画・運営した。「バスボム作り」と「シート磁石でコツコツキツキを作ろう!」の2つの実験を通じ、地域の子どもたちに科学の不思議や楽しさをわかりやすく伝えるために、説明方法や展示に趣向を凝らした。</p> <p>また、3年LAS探究選択グループが東向商店街の文化祭で子ども向けの科学実験によるワークショップを通じて、訪れた観光客や地域住民と交流した。さらに、ヘルスアンドビューティーブランド「THERA (テラ)」さんとの連携により、探究の成果を共有しながら地域住民との交流を深めた。</p> <p>これらの活動を通じて生徒は互いの長所を活かした役割分担を行い、主体的にブースを運営した。このプロセスを経験することで、科学的な知見を社会に活かす意義や地域と協働する楽しさを肌で感じながら学ぶことができた。</p>	

2. 事業の成果と課題

<p>これらの活動を通じ、生徒たちは科学の楽しさや内容を対象に合わせて伝える工夫を重ね、表現力および発信力を大きく向上させることができた。また、参加者からの直接的な反応や感謝の言葉は、生徒たちの達成感と自己肯定感を高め、地域社会における高校生の役割を再認識する貴重な契機となった。今後も一過性のイベントに留めず、地域との継続的な連携を深化させるための仕組みづくりを勧めていきたい。</p>
--

